

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
68

振興協議会だより

【発行日】令和6年8月28日
【発行】苗場山麓ジオパーク推進室
【お問い合わせ】025-765-1600



苗場山麓ジオパーク振興協議会総会

6月25日、津南町役場大会議室において、令和6年度苗場山麓ジオパーク振興協議会総会が開催されました。

はじめに、協議会の新規委員や新年度の新規担当職員の紹介が行われました。続いて令和5年度の報告事項として、事務局と4部会（資源探査部会、商品開発部会、広報部会、ガイド部会）の部会長からそれぞれ事業報告が行われ、決算報告が担当者から行われました。その後、令和6年度の事業計画および予算案が議案に上げられ、全て承認されました。

令和6年度事業の内容で、今年は苗場山麓ジオパークが日本ジオパーク認定10周年の年であることから、新たに記念講演会や展示会の開催などが提案され、情報の共有を図りました。

また、「苗場山麓ジオパーク基本計画」の内容について検討も行われ、協議会委員、学術指導委員の意見も取り入れ、策定されることが決定しました。

今年度も事業計画案に基づき、認定10周年事業を取り入れ、様々な活動を展開して参ります。また、全国のジオパーク、地域の学校、住民のみなさんと連携した活動を進めていき、記念すべき認定10周年を迎えたいと思います。



苗場山麓ジオパーク認定10周年記念講演会開催のお知らせ

苗場山麓ジオパークは、2024年12月22日に日本ジオパーク認定10周年を迎えます。地域の皆様をはじめ、認定ガイド、関係者の皆様のご支援の賜物と心より厚くお礼申し上げます。

日本ジオパーク認定10周年記念として講演会を開催します。ぜひご参加ください！

苗場山麓ジオパーク認定10周年記念講演会 ※参加無料

開催日 2024年10月26日（土）

会場 栄村役場かたくりホール 定員160名

基調講演 13:30～ 「私たちの暮らしと地球温暖化～食と農とを通じた地球とのかかわり～」

意見交換 14:30～ 「苗場山麓の地域資源の活用と保全を考える」

講師紹介



おおいわね ひろし
大岩根 尚 氏

（hikari works合同会社代表・元三島村・鬼界カルデラジオパーク専門員）

九州大学、東京大学で地質学・海洋地質学を専攻して博士（環境学）の学位を取得。その後、国立極地研究所へ就職し、第53次日本南極地域観測隊として南極内陸部の気候変動に関連する調査に参加。帰国後、2013年10月から鹿児島県三島村役場のジオパーク専門職員に。2017年3月に三島村役場を退職。硫黄島に移住し起業。自然ガイドや中高大学生の実習を受け入れ、教育・研究のサポートなどSDGsや気候変動対策など、地球規模の課題と日常をつなぐ活動を継続。

【お問合せ】苗場山麓ジオパーク振興協議会事務局 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町下船渡乙835
TEL: 025-765-1600 FAX: 025-765-2299 MAIL: naeba36@naeba-geo.org



JGN総会、議連総会、事務局長会議に出席しました

7月5・6日に東京都内で開催された日本ジオパークネットワーク（以下、「JGN」）「通常総会、理事会」、「事務局長会議」と「ジオパークによる地域活性化推進議員連盟（以下、「議連」）第9回総会」に出席してきました。

JGN 総会では古川理事長からのあいさつで「ジオパークは地質的なことだけでなく観光に資する側面がある。その矢先にコロナ禍となってしまった。しかし今、人の動きが戻ってきた。これからがチャンス。それぞれの地域で盛り上げていきましょう。」とのお話がありました。また、会員加盟状況の報告では2地域が新たに加盟し55地域180市町村となりました。2023年度の事業・決算報告、2024年度の事業計画・予算が提案され全て承認、引き続き活発に活動を進めることとなりました。任期満了による役員選任では新理事に当苗場山麓ジオパーク振興協議会の桑原会長が選任されました。

議連総会では会長である石破茂衆議院議員をはじめ国会議員、JGN 関係者が出席しました。この席でJGNからの要望書を石破会長に手渡しました。要望では、JGNは全国の市町村の約1割が参画するネットワークに拡大しており、持続可能な社会づくりに向けて地域住民や団体が一体となって保護・保全や教育、地域振興やジオツーリズムに取り組んでいることを伝え、ジオパーク活動への参加協力と財政的支援、教育におけるジオパークの活用、補助制度創設などの支援をお願いしました。

事務局長会議では、JGN 中期計画に基づく事業、ブランド力の向上「持続可能な観光（サステナブルツーリズム）」の目的地としてのジオパークの準備についてワークショップを行いました。各ジオパークで実施している取り組み、なかなか実現できない原因・問題や取り組みにあたり何から進めたいか話し合いました。各地域でいろいろな取り組みを行っていることを知る機会となり、観光もジオパークも教育も連携を強化しなければ成果につながらない等の意見がありました。また、サステナブルツーリズムの概念が分かりにくく地域住民への理解を深めることが大切だと感じました。その他、JGN ネットワークの強化、組織体制や中期計画の評価方法についても意見交換を行いました。



JGN通常総会



JGN理事会 桑原会長が選任



議連総会



事務局長会議 ワークショップ



第9回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト入賞作品展示会

昨年度実施した第9回苗場山麓ジオパークフォトコンテストにおいて、応募総数288点の中から選ばれた27点の入賞作品の展示会を開催しました。

第1回目は、栄村役場において7月12日(金)～8月19日(月)に開かれ、村内外から24名の方々にご観覧いただきました。

第2回目は、津南町農と縄文の体験実習館なじょもんにおいて展示会が予定されています。11月23日(土)～12月22日(日)の期間で開催しますので、ぜひご観覧ください。



認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

岩館 広彬さん



苗場山麓ジオパークとアウトドアアクティビティー（ガイドNo.65 岩館 広彬さん）

2015年秋頃から苗場山麓ジオパークエリアを訪れ始めました。特に秋山郷エリアには春夏秋冬、何度もドライブで訪れています。今、改めて何に魅了されたのかを考えると、私の生まれ育ったエリアとは異なる生活様式や気候を、車で走っているだけでも感じられるほどの違いに感動していたのだと思います。

私の仕事でありライフワークでもあるアウトドアアクティビティーと、振興協会とのコラボレーションで行っている「ジオラフティング」では、ジオガイドの皆さんと一緒に川から地層や堆積物等を観察するのが楽しくて仕方ありません。

三つの要素（ジオ・エコ・カルチャー）で構成されている苗場山麓ジオパーク。「エコ」、「カルチャー」においては、人の流入や開発のしづらさが功を奏し、多く自然や文化が保全され現存しており、このエリアを訪れた私を引き付けました。「ジオ」についてはアクセスや安全面において思案し、実現はまだ出来ていませんが、ジオサイトを生かしたアクティビティーの開発を進めています。私のジオガイドとしての役割は、アウトドアアクティビティーを通してこのエリアの魅力を楽しみながら伝えていくことだと考えています。

私のおすすめジオサイトは一番奥地にある「雑魚川の大滝」です。河川の侵食により形成されている高さ約20mにも及ぶ2段の滝です。周辺の原生林や滝の上流部には大小複数の滝や一面に広がる滑床が独特の景観を作り、遊び場としてもとてもワクワクさせてくれます。

2022年には信越トレイルの踏破の過程で、歩いてでなければ感じられない秋山郷の魅力を発見し、まだまだジオパークには未発見の「ステキ」があると感じています。



地形・地質の観察を兼ねたジオラフティング（信濃川）



雑魚川の大滝（信濃川の二次支流）

ジオサイトNo.29 雑魚川の大滝

雑魚川の上流、奥志賀林道沿いの切明から約6kmのところ position する滝です。苗場山麓で一番古い地層である結束層の堅い変質した安山岩質の凝灰角礫岩がつくる滝です。落差約20mの2段になった美しい滝で、近くまで遊歩道が整備されています。

お知らせ

苗場山麓ジオパークは、2024年12月22日で日本認定10周年を迎えます。

9月7日(土) 9:00～13:00 ガイドスキルアップ研修・人気のサイト巡りツアー② 場所:中条川崩壊地形、小滝四廻り
10月5日(土) 9:00～13:00 ジオラフティング(未体験者優先) 場所:小下里～下船渡本村(予定) ※変更もあります。



突撃しよう！となりのジオ便り～三島村・鬼界カルデラジオパークからこんにちは～（ジオパーク推進員 坂本 房江）

皆さまこんにちは！「となりのジオ」というにはあまりに遠い、九州は鹿児島県の離島からのご挨拶です。三島村・鬼界カルデラジオパークは、鹿児島市の南約100kmの沖に浮かぶ3つの島と海中カルデラから成ります。

●島の成り立ち

鬼界カルデラは、大きさ東西約20km・南北約17km、7300年前の噴火によりできたもので、これは地球上で一番新しい巨大カルデラ噴火と言われています。3島のうちの、竹島と硫黄島は、そのカルデラ壁が海上に顔を出している部分であり、少し離れた黒島は第三紀の火山島です。

●現在の火山

硫黄島にはポストカルデラ火山の硫黄岳があり、そこから絶えずマグマ起源の火山ガスを大量に吐き出しています。このことやその他の研究によって、鬼界カルデラの下には、今も大型のマグマだまりが存在すると考えられています。

●景観

硫黄島に近づくと、山体のあちこちからガスが出ている硫黄岳と、ミルキーブルーに変色した海に目を奪われます。火山ガスによって強酸性となった雨水が、硫黄岳の岩石成分（アルミやケイ素）を溶かしながらか流れ下り、海水と反応して白濁を生じているためです。そして港に近づくと、今度は海が赤茶色になります。原因は・・・ご想像通りの鉄分多めの温泉水です。

●温泉

強酸性（pH2以下）の野湯（丸見え露天風呂）が人気です。「硫酸でしかない」と化学者に言わしめた東（ひがし）温泉は、1回の入浴で水虫が治るそうです。

●文化

3島それぞれに仮面神が存在しますが、一番有名なのは硫黄島のメンドンです。旧暦の8/1・8/2に現れて、人々の厄を払い島から悪霊を追い出す神様です。全国的に有名な男鹿のナマハゲと同じ「来訪神」にカテゴライズされていますが、メンドンの姿は東南アジアとの繋がりを感じさせます。

●暮らし

実は、三島村役場は島にはなく、鹿児島市内にあります。自分の町村内に役場がないのは、全国で3自治体と、かなりレアケースです。役場の利便性として、3島のうちどこかに役場を置くよりも、鹿児島市の方が良いだろうということだったようです。

こんな感じの秘境感たっぷりの三島村・鬼界カルデラジオパークに、ぜひお越しくださいませ。お待ちしております！



硫黄島港 手前が稲村岳・後ろが硫黄岳



仮面神メンドン



矢櫃村跡まで探検ツアーを実施しました

7月13日（土）、好天に恵まれた中、矢櫃村跡まで探検ツアーを実施しました。当初の計画では、出発地点へ向かうバスのルートの前倉から村道長瀬秋山線出会いへのコースを予定していましたが、道路工事のため屋敷を回って往復するコースとなりました。

10時15分に散策を開始し、およそ30分後に矢櫃村跡に到着しました。現地に建てられた記念碑を見るにあたり、天明の飢饉（1782～1787年）により、廃村となってしまったこの地にかつて村があり、村人たちが暮らしを営んでいたであろう様子を想像しました。また、矢櫃橋跡を眺めては、「橋を架ければ苗場山へ向かう格好のコースになるのだが。」と思いつつ、11時30分に矢櫃の川原に降り、中津川の流れを見て、一時の溪谷の美しさを味わうことができました。

帰路は、舗装された村道まで40分ほど歩き、往路と同じ道を通り農と縄文の体験実習館なじもんにもどりしました。

次年度は、鳥甲牧場から十三曲りの坂、なべわり坂コースを踏破する予定です。

今回、たくさんの方から参加のお申込みをいただき、嬉しいことに満員となりました。次回も皆様のご参加お待ちしております。



矢櫃橋跡



矢櫃の川原